

クラス番号	903	担当教員名	伊藤 文人
テーマ	戦争・福祉・人権：経験者から学ぶ		
ゼミナール概要			
キーワード：総力戦体制、国民生活、優生思想、社会防衛思想、福祉、人権、戦争体験者、生活史			
専門演習への橋渡しをするこの基礎演習のテーマは「戦争・福祉・人権」です。ここには様々な意味が込められています。主要には次の3つです。 第一に、戦争は、どのような歴史的条件のなかで発生するのか（国際関係、政治経済体制、差別意識など）、第二に、戦争が発生すると福祉はどのような手段として機能するのか（戦時体制を維持するために為政者【政治家・軍人・官僚・経済人・マスコミ・学者】たちはなにをどう考え行動したのでしょうか）、第三に、戦争が発生・継続する中で、一般国民や福祉の対象者（当時の高齢者、障害者、児童や女性）はどのような扱いを受けたのか、その生活の実相はなんであったのでしょうか（徴兵制、国民の衣食住の状態、福祉対象者の人権と一般国民の人権の実相など）。 今回、このようなゼミテーマを設定した理由は、次の3点です。 第一に、日本は時代の大転換期に入ったと言えます。皆さんもご存じのように日本国憲法の枠（立憲主義）を逸脱した安全保障関係法制が成立し、自衛隊が米軍と海外で軍事行動できる地盤ができました。第二に、いくぶん皮肉がかった結果ですが、このような為政者の強引な日本社会の舵取りに対して、過去の歴史を学ぶ姿勢を持つ多くの国民（みなさんの世代を含む）が反対の声を上げ、改めて民主主義を基調とする社会とは何かが模索されて始めています。（これはとてもよい兆候であると思います） 第三に、日本社会が戦争やテロに巻き込まれる可能性が否定できない、あるいは言論や集会の自由がすでに脅かされる中で、私たちは後代の責務としても、戦時中の厳しい時代を生き抜いてきた人たちの「生の声」をできる限り直接聞きながら記録に残していく必要性を強く感じています。 このゼミでは、私たちが今まで学んできた「あの時代の、あの戦争とは何であったのか？」を様々な切り口（視点）から改めて検証しなおして、戦争が当時の（日本）社会と国民にどのような影響を与えたのか、その功罪を学ぶことを目的とします。私たちは、将来社会福祉の領域で実践をする専門職を目指していますが、誰も飢えない、殺し／殺されない戦争や争いのない社会を創り出していく責務が一市民（国民）としてもあるはずです。歴史や思想に対する深い洞察に裏付けられた（教養ある）実践が当然求められることでしょう。それを一緒に＜学びあう＞ことは「人間としての使命」だと思っています。 ＜前期＞は、グループに分かれて、日本が戦争に突入していった歴史的条件や背景を改めて文献や資料を通じて＜学びあい＞ながら理解していきたいと思ひます。その意見交換や討論を元にして、戦争体験者へのインタビュー内容を考えていきます。（夏期休暇中は祖父母への基本インタビューを実施します） ＜後期＞は、大学近郊の戦争を語り継ぐ活動をしている会や戦争を実際に体験した人々を私たちが直接訪問して、インタビュー（それは当事者と対話をするという意味です）を実施し、それを記録します。そこからゼミ生ひとりひとりが最終レポート（16000字：原稿用紙40枚）を執筆します（単位認定要件）。			
担当教員からのメッセージ			
私事で恐縮ですが、私の祖母は齢99歳（白寿）です。耳は遠くなり、足腰も弱りましたが、幸いにも自宅で元気に生活しています。彼女は、日本が大陸に侵略していく中で成長し、大東亜戦争（1931-45）に至る過程で結婚し子どもをうみ育て、戦後は亡き祖父の興した小さな会社を陰で支えました。改めて先行世代の人生により添いつつ、彼らからの学びを自分たちの生き方に活かしたいと思う方は是非一緒に学びあいましょう。 エントリー・シートには、①戦争に対する自分のイメージ、②ゼミでどのようなことを深く学び合いたいのか、③自分のゼミ内での独自の役割（「私は〇〇ということでゼミに貢献できます！」）について書いてください。学びを深める合宿やコンパ企画などにも積極的に参加するみなさんにお会いできることを楽しみにしています。			